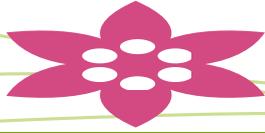




うさぎの耳

聴くことは社会貢献の第一歩！



第45号(2020年8月1日)
福津市社会福祉協議会内

◇ 社協、福津市、包括支援センター等からのお知らせ 特にありません

◇ 会からの知らせ

(1) ふれあいコール関連

① 協定書細部調整：7月10日(金)15:30～
堤田課長、中村係長；長井、小野、山崎各会員

② 協定書調印式：7月31日14:00～：別掲記事参照

(2) 癒しの傾聴カフェは、7月3日(金)再開9名参加；8月7日(金)6名参加(金曜日は、ふれあいコールの開催曜日と重なりますが、当面傾聴カフェは第一金曜日とします。)

(3) イオン黄色いレシートキャンペーンの再開の目途は立っていません。

(4) 傾聴活動再開の目標月：9月としていましたが、別記のように変更しました。

◇ 7月定例会の話題

(1) 「ふれあいダイアル」細部実施要領(具体的事項)について説明しました。

(2) スケジュール調整：ふれあいコール関連のみ

*8月定例会を8月20日(木)開催します。マスク着用をお願いします。

◇ 10分ふれあいコール協定締結式に列席して

7月31日(金)14時から、福津市市長室において標記式が行われました。

参加者は、原崎市長、松田副市長、堤田課長、中村係長、ほほえみ側から山崎会長、長井副会長、小野、河内、小西各会員でした。

先ず市長、会長間で書面への署名捺印、協定書面の交換を終え、記念撮影が行われました。その後懇談に移り、係長からこの事業発足の経過説明がなされました。続いて、市長から概要次のような挨拶がありました。

コロナ禍の影響により市民の皆さんは活動の自粛を余儀なくされ、特にお一人暮らしの方は「誰とも話をせず一日が終わる」こともあるのではないのでしょうか。そんな中一本の電話が心を救うこともあると考えます。

本協定を、長期にわたり傾聴を通じて地域に暮らす人が人との繋がりを実感し、前向きになれるように支援を続けられているボランティアほほえみと締結することにより、市の基本構想であります「健康で生き生き暮らせるまち、つながりを大切にしまち」作りに協力して頂けるものと期待を申し上げます。

会長から、本式に対するお礼を述べ、この事業がコロナに留まることなく、敷衍的(ふえんてき)に包括ケアシステムの生活支援サービスとして位置づけることが出来れば、それは即ちほほえみの活動理念とも符合するため、多くのコールを期待したい旨の挨拶をしました。そして、電話対応においては、「存在を聴く」を基本に臨みたいことを付言しておきました。



記者からの質問に対して、昨年度の活動回数、参加人数などを回答しほほえみのPRも忘れないようにしました。

本協働事業の一方の当事者として、チラシを郷づくり、民生委員会、小地域福祉会などの会合に積極的に持ち込み、本事業の周知化を図り折角の企画を盛り上げたいと思っています。各会員の方も、これまでの傾聴活動の延長線上にあるこの電話傾聴を自己研鑽の場として、自発的に参加されることを是非お願いします。



◇ 傾聴活動に関する各施設に対しての連絡事項

次のように郵送しました（8月6日）。

老人福祉施設傾聴活動担当者 各位

傾聴活動の今後の対応についてのご連絡

梅雨も明け暑さも本格的になって参りました。そのうえコロナ対応で、多忙なことと思います。先に9月から傾聴活動を再開したい旨のお知らせを致しましたが、その後の感染者は減るどころか増加一方の情勢です。再三の活動休止の連絡をして大変申し訳なく思っていますが、このように想像を超えた下では、活動再開の時期を明示することは難しくなりました。

入所者の方々に置かれましては、制約が多い中せめて少しの話だけでもと思っておられる方もいらっしゃるでしょうが、貴施設におかれましてもその要望に十分に叶えることは難しいことでしょう。

当会としましても微力ながらお手伝いをしたいのは山々ですが、身動きが取れない状況で事態を静観しつつ、明るい見通しになるのを待たざるを得ません。

環境が良くなり入所者の方の雰囲気や貴施設管理者の判断から、当会の活動を受け入れることが可能になりましたら、社会福祉協議会または当会の貴施設担当者までご一報下さい。当会としましても総合的に勘案して態勢を万全にした上でご要望に応えたいと考えています。

向暑の中、入所者の方々及び貴施設職員のみなさんの健康管理に専念されることを祈念します。

